

なすびの花

3定・5ゲン

製造課では毎月、教育訓練が行われていて、最近見た資料に、『3定』の説明が書かれていました。

『**定位**』『**定品**』『**定量**』の3つの『**定**』のことで、5Sの『**整頓**』の実践となります。

この3つの『**定**』の目的は、誰が見ても、どこに何があるか分かる状態にすることで、必要なものが必要な時にすぐに使用できることで、作業効率や生産性を向上させることです。

教育の成果として、業務の様々な場で、どしどし活用されることを願います。

今月はこの数字つながりで、『**3現主義**』と『**5ゲン主義**』をテーマにしました。

『**現場**』『**現物**』『**現実**』の3現に、『**原理**』『**原則**』の2つを足したものが『**5ゲン主義**』です。

この『**原理**』『**原則**』って、説明が難しいですね。

●『**原理**』⇨物事を成り立たせる法則や仕組みから外れていないかどうか

●『**原則**』⇨多くの場合に当てはまる決まりや規則から外れていないかどうか

トラブルが発生した時には、きちんと『**現場**』に足を運び、『**現物**』を確認し、『**現実**』を見て、『**原理**』から外れていないことと、『**原則**』と異なることが行われていないことを確認し、実際の状況を正しく理解しないといけないことです。

先月号でも、長年の経験で感度が鈍くなることに、少し触れています。経験が積むほどに、経験値でおおよその想像ができてしまうせいか、現場に足を運ぶことが減ってしまいがちです。

ですが、実際に目で見て、触れて、原因を特定すること、大きな意味があります。

例えば、日常業務の中でも、

「○○はちゃんとできていますか？」

と確認された時、

「はい。できています。」

という言葉だけでは、説得力に欠けています。

実際にできている裏付けとなる、資料なり記録なりを示さないと、双方の認識に誤りがあっても気づけません。

同様に、不具合品に対しても、発生原因や経緯について、正しく裏付けをとらないと、再発防止の方向を誤ってしまうことにつながります。

問題解決のためには、現場に足を運び、目で見て、現状を正しく理解し、原理・原則に照らし合わせて、原因追及を行います。

ベテランの人々も、フレッシュな気持ちに返って、フレッシュな人たちと一緒に、現場で現物を確認してみると、新しい発見があるかも知れません。

そしてフレッシュな人たちには、何度も経験することが、問題解決の訓練となるので、日常の課題など、さまざまな場面においても活用し、成長の機会にできるのではないのでしょうか。

大地震への備え

阪神淡路大震災以来、日本でも世界でも、あちこちで大きな地震が、発生しています。

なすびの花でも、時々「地震の備え」をテーマにしていますが、皆様の備えはいかがでしょうか。

一般的に、大地震によってライフラインが止まってしまっても、3日から1週間程度は、自力で生活できるように、非常食や飲料水等の備蓄をしておきましょうと言われてますね。

我が社でも、就業中に被災した場合に備えて、飲料水、非常食が備蓄されていますし、災害時に開放される自動販売機も設置されています。

また、昨年は新工場に移転となり、ハザードマップを確認した避難訓練も実施し、全員が避難経路より、手際よく避難できていました。

先日、阪神淡路大震災から30年ということで、被災された方がお話されているのを聞きました。

その方は、地震により、色々なものを失われたのですが、周囲の人たちと支えあって、前を向くことができましたとおっしゃっていました。

大きな地震に備えて、住宅の耐震、防災グッズの準備、非常食・飲料水の準備、そして、被災した人たちが特に言っておられるのが、災害用トイレです。

災害用トイレの準備は、家庭では、1日5〜7回×10日分×家族分があると安心です。

そして、被災された方のお話にもある通り、周囲の方々の日頃からのコミュニケーションがとても大切です。

移転後、まだ浅いですが、これから徐々に周囲の方々ともコミュニケーションを図りたいですね。